

平成17年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

「特発性造血障害に関する調査研究」班

および

重点研究「骨髄異形成症候群に対する画期的治療法に関する研究」班

平成17年度 第1回合同班員会議（特発性造血障害班の立ち上げの会）

日時：5月24日（火）午後6時～

場所：アステラス製薬（旧 山之内製薬）本社 313 会議室

〒103-8411 東京都中央区日本橋本町 2-3-11

議事録

出席者：小澤（主任研究者）、小峰（前主任研究者、アドバイザー）、三谷（重点研究班班長）内山（代理：石川）、岡本、金倉、澤田、朝長、中尾、中畑、原田（代理：下田）、村手、高德（事務局）、河村（三谷班事務局）、吉田（事務局）

1) 小澤、小峰先生、三谷先生による挨拶

2) 報告事項（主任研究者：小澤）：

- ・ 新班の組織構成（主任研究者・分担研究者）について：小峰先生と浅野先生が御退任・御退官になり、さらに浦部先生が辞退されたため、新分担研究者として、岡本先生、澤田先生、中尾先生の3名をお願いした。岡本先生には造血幹細胞移植領域を浅野先生から引き継いでいただき、中尾先生には再不貧領域を浦部先生から引き継いでいただく形とした。澤田先生は慢性赤芽球癆の担当と東北・北海道ブロック代表という位置付けをお願いした。
- ・ 新班の組織構成（研究協力者）について：新しい研究協力者として、小松先生・東條先生・中熊先生・山下先生をお願いした。また、月本先生が辞退されたため、小原先生をお願いした。その他、東大（本郷）の次期教授にもお願いすることとして枠を一つ残した。事務局担当の研究協力者としては高德が務めることとした。（人数が膨

らまないようにしたため、何人かの先生には新班での継続をお願いすることができなかった。)

その後、別所先生から連絡があり、セントラルレビューを実質的に担当している松田先生にバトンを渡したい旨、連絡があり、了承した。

東大教授（本郷）については、黒川先生が選考され（6月1日）、御本人からも研究協力者について快諾が得られた。

疫学班の杉田先生には既に御了承いただいていたが、微生物班の佐多先生からも御了承の連絡をいただいた。但し、具体的な連携には難しい点があることを両先生が共に指摘されており、今後の要検討課題である。

- ・ 研究計画書の採択について：平成17年4月1日付で採択となった。評価委員会のコメントは、「我が国の最強のチームで、実績もある。班員の構成と内容のバランスがとれている。三谷班と十分に連携して欲しい。大規模な臨床研究で、基盤もしっかりしている。伝統ある研究班で、研究成果が確実にでていく。」などといった好意的なものであった。但し、「治療面の計画が少ない。症例のサンプルを集め、集中的に研究する体制になっていないのでは。」という反省すべき点・助言もいただき、今後の検討課題として受け止めていく必要がある。
- ・ 研究経費について：総額が4千万円で申請額より2割減額されたため、主任研究者・分担研究者の配分額を10%カットし、それぞれ360万円、180万円とした。また、一般研究協力者19名の経費も80万円に減額した。事務局経費（事務局担当研究協力者）としては、残りの500万円とし、報告書出版費・分担研究者旅費・会議費・雑費にあてることとした。尚、その他、間接経費が初年度は30%認められるため、1,200万円が計上された（但し、間接経費は大学に入ってしまう、班の研究費には使用できない）。
- ・ 難治性疾患克服研究事業の説明会：4月28日実施の予定が延期されているので、開催された場合、その内容を後日、班員の皆さんに連絡することとした。
- ・ 難病情報センター事業（<http://www.nanbyou.or.jp/>）：インターネットにより難病に関する各種の情報を広く提供する目的で、本研究班も協力を求められており、下記の班員を難病情報センター情報企画委員として推薦した。
 - ・ 再生不良性貧血： 中尾先生（新規）
 - ・ 溶血性貧血：PNH --- 金倉先生
 AIHA --- 小澤（新規）
 - ・ 不応性貧血（MDS）： 内山先生
 - ・ 骨髄線維症： 原田先生
- ・ 事務手続き等について簡単に説明した。

3) 審議事項 (青字は、次回班会議までの課題)

3-1 先端医療および境界領域 (小澤)

- ・ 「造血幹細胞遺伝子治療」や「間葉系幹細胞を用いた GVHD 制御法」などの先端医療の調査研究を行う。
- ・ 再不貧および MDS などの特発性造血障害疾患における鉄過剰症の調査研究について: ICL670 (経口鉄キレート剤) の第一相臨床試験が進行中であり、我が国の実態を把握するための全国規模のアンケート調査を事務局が中心になって実施する。本研究班の関係疾患である PRCA や MF などについてもカバーした方が良い。輸血状況、鉄過剰症の評価法、治療状況、ドクターサイドの意識調査など、広汎な調査を行う。
 - ☞ 鉄過剰症実態調査の事務局案を各領域担当グループと相談しながら作成する。

3-2 再生不良性貧血 (中尾先生)

- ・ 臨床調査個人票などの有効利用による疫学調査
 - ☞ 同一症例で医学的診断名と保険病名の不一致が存在し、解釈が難しい場合がある。そこで、信頼性を損なわずにどの程度の疫学調査が可能であるか検討し、活用方法を探る。また、関連学会や他の班会議での調査研究との連携を模索して下さい。従来の調査研究の継続も重要。免疫病態マーカーの検索などについても、班会議で具体案を紹介して下さい。
- ・ セントラルレビューと前方視的調査: 現状では症例の集まりが悪い。また、再不貧と MDS-RA の鑑別診断が問題となるため、両者を統合したレビューシステムの構築が必要。
 - ☞ 朝長先生から別所先生に、これまでの再不貧でのレビューシステムを活用して MDS も対象に含める旨、連絡していただいたようです (朝長先生: どうも有り難うございました)。

今後の体制については、これまでの埼玉医大を中心にしたメンバー (別所先生+松田先生、中尾先生、朝長先生、小児科グループ) に、MDS グループの通山先生、石川先生 (内山先生の代理) が加わった形をお願いします。新体制への移行については、別所先生に音頭を取っていただき、その上で、松田先生にバトンを渡していただくこととなります (松田先生: 別所先生の後まとめ役をお願い致します)。7月の班会議で、具体的なシステムを提案して下さい。

尚、MDS については、RA を中心とした低リスク MDS をカバーすれば再不貧との鑑別の問題は扱えると思いますが、その他の MDS を、MDS 中での分類の標準化を目的に対象

とするかどうかは、MDS グループ（内山先生・朝長先生）で意見調整をお願いします。

- ・ 分子病態の解明（ファンconi貧血など）

☞ 肝炎後再不貧については、微生物班との連携の仕方を検討して下さい。

- ・ 治療研究について

☞ 新しい方向性についても可能性を検討して下さい。

3-3 （関連疾患）慢性赤芽球癆（澤田先生）

- ・ アンケート調査：年一回の調査を継続していく。但し、まだ登録が不十分。

☞ 調査対象施設を全国に拡大する方向で、具体的方針をまとめて下さい。

3-4 MDS（内山先生代理・石川先生、朝長先生、村手先生）

石川先生

- ・ 低リスク MDS の層別化のためのデータベース作成と治療方針の検討

☞ 免疫抑制療法に関する今後の研究方針を提示して下さい。

☞ スメア標本のセントラルレビューについては、再不貧の項を参照。

☞ 附随研究については、具体案を MDS グループ内で調整し、提案して下さい。

☞ MDS に限らず、特発性造血障害疾患の症例登録システムに関して、日血・臨血の委員会で準備作業が進んでおり、担当されている中尾先生に特発性造血障害班も同システムを利用できるように検討していただくこととした。

朝長先生

- ・ 5月上旬に開催された MDS 国際シンポジウムと Iron Overload コンセンサス会議の概要について報告。Revlimid、ICL670 などの欧米の臨床試験の現状と日本での治験に関する現状・見通しが紹介された。

☞ 新しい分子標的療法への取り組みに関して、三谷班との連携を検討して下さい。

MDS 重点研究班（三谷先生）

- ・ 重点研究班の進捗状況について紹介。

☞ 新規治療の国内での臨床試験について、連携を検討していただく。

3-5 PNH(金倉先生)

- ・ 分子病態に関する研究の方向性、抗体医薬 (Eculizumab) などについて報告。さらに小峰先生から、Alexion (Eculizumab 開発会社) との交渉状況と日本での臨床試験の見

通し、PNH 国際登録の状況について説明があった。

☞ 班会議では、症例登録、疫学調査の方針を説明して下さい。また、抗体療法に関する現状と日本での臨床試験の見通しを紹介して下さい。クローン性拡大の分子機序に関する研究戦略も具体的に示して下さい。

3-6 溶血性貧血（小澤）

- ・ 梶井先生、亀先先生の研究プランを紹介。
- ☞ 前方視的疫学調査について方針をまとめる（小峰先生からの引き継ぎ）。
- ☞ リツキサンによる治療の臨床研究の可能性を探る。

3-7 骨髄線維症（原田先生代理・下田先生）

- ・ 最近の話題の Jak2 の変異、ならびに関連分子の変異について、既存のサンプルを用いて解析中であり、中間報告がなされた。方向性がある程度定まったところで、共同研究に拡大し、日本の症例の特徴を明らかにしていく予定。尚、このスタディについては、山梨大の小松先生からも共同研究の希望が出されているため、解析内容を分担できるかどうか、検討していただくこととした。症例サンプルは分散しない方が良い。
- ☞ 具体的な研究プランをまとめていただく。（小松先生：下田先生に直接御相談下さい。）
- ・ サリドマイド治療や造血幹細胞移植の状況について報告。岡本先生からも追加報告があった。
- ☞ 今後の方針をまとめて下さい。

3-8 造血幹細胞移植領域（岡本先生）

- ・ 高齢者 MDS に対する造血幹細胞移植の指針の作成、重症再不貧に対する造血幹細胞移植後の二次発癌の追跡調査（継続テーマ）、RIST の有用性に関する検討などを行う予定。
- ☞ 移植関連学会や研究班との連携を図り、効率的なスタディプランを提案して下さい。

3-9 小児科領域（中畑先生）

- ・ 小児再不貧、小児 MDS に関する研究のプランと担当者（再不貧が小島先生と小原先生；MDS が中畑先生と真部先生）について報告。
- ☞ 小児と成人との間の研究手法の調整、また境界領域の取り扱いについて方針をま

とめて下さい。

4) 総合討論

☞ 各領域で、疫学班との連携の仕方を検討して下さい。

- ・ 小峰先生より、特発性造血障害班のホームページ作成が提案された。次回の班会議に間に合わせるようにする。

5) 事務局連絡

- ・ 次回合同班員会議は7月8日(金)の午前、第1回班会議は同日の午後を予定。分担研究者から各領域の3年間の方針と本年度の計画を発表していただき、研究協力者にも必要に応じて共同研究の提案をしてもらう。MDS重点研究班(三谷班)については、各班員に従来通りの研究報告をしてもらう。

***** 以上 *****

平成17年度 第2回合同班員会議

日時：7月8日（金）午後10時～

場所：アステラス製薬（旧 山之内製薬）本社 313 会議室
〒103-8411 東京都中央区日本橋本町 2-3-11

議事録

出席者：小澤（主任研究者）、小峰（前主任研究者、アドバイザー）、三谷（重点研究班班長）内山、岡本、金倉、澤田、朝長、中尾、中畑、原田、村手、杉田、佐多、下田、伊津野、高德（事務局）、河村（三谷班事務局）、吉田（事務局）

1) 挨拶 各自自己紹介後、小澤（主任研究者）の挨拶。

杉田先生（疫学班） 再生不良性貧血、特発性血小板減少症の疫学調査について報告あり。他の特定疾患と同様に届出表に基づく疫学調査結果であり、以前と比べて発症に大きな変化はない。都道府県による登録の差が大きい。発症年齢の統計のパターンは、概ね臨床家のイメージと合っている。今後は、治療法や予後も含めて検討したい。

佐多先生（微生物班） 再生不良性貧血とウイルスに関して、これまでも小峰班を通じてサンプル提供を呼びかけてきたが、残念ながら提供はなかった。提供サンプルが肝生検であったり、各施設の IRB 通過が条件であったりとハードルが高いこともあった。IRB 申請用のひな形は、国立感染症研究所のホームページにあるので、利用してほしい。今後も検討を継続したい。

小峰先生より挨拶あり。

2) 報告事項：小澤より、午後の班会議総会の概要を説明。また、造血障害班のホームページ開設のお知らせと、PC を使ったのデモを行う。『難治性疾患克服研究における治療の有効性に関する調査』の予備調査の依頼があった件を報告。杉田先生より、この調査を実施するかどうか厚労省内でもまだ不透明な要素があると追加発言あり。難病財団からの奨励金応募の案内あり。

3) 審議事項

3-1) 中尾先生：再生不良性貧血の今後3年間の研究計画（疫学・病態・治療）を示した。

疫学研究については、個人調査表に基づくデータベースとしては信頼性に問題があ

る。例えば新規登録に際しては、染色体情報などは未記入のまま、後から追跡することはできない。また予後や治療に関しても追跡することは現状では困難である。登録の労力が何らかの情報として臨床家に還元されることを考える必要がある。

杉田先生（疫学班）から、疫学調査の説明あり。ここで都道府県による人口比当たりの発症の差が大きい指摘あり、おそらく都道府県ごとの事務方の登録の差に帰因するのではないかと。

再生不良性貧血のセントラルレビューと前方視的調査は今後も継続予定である。しかし今後は MDS 登録と含めて、疫学班や学会の疾患登録システムとの連携を深めて効率化を検討する必要がある。病態研究に関しては、PNH タイプ血球と DSR-1 抗体の臨床的意義の検討を継続予定である。Fanconi 貧血に関しては、山下先生（群馬大学）と共同研究で病態調査を継続予定である。治療の調査では、初回ウマ ATG 不応例に対するウサギ ATG に有用性の検討、および骨髄移植の至適条件の検討を予定している。

佐多先生（微生物班）より、今後の検体収集継続の説明があり、MDS などを含めてはどうかと提案があった。

会議から、ウイルス感染が疑われる症例に絞って検体を募ったほうがよいのではないかと。また再生不良性貧血発症後のサンプルは血清がよいのではないかと提案があった。

3-2) 澤田先生：赤芽球癆の調査継続の提案あり。今後はアンケート調査対象施設を班会議メンバー施設以外に拡大していく方針。

3-3) 内山先生：MDS 班は、患者登録システムやセントラルレビューなど基礎的支援システムを積極的に構築する必要があるのではないかと提案あり。

石川先生：患者登録システムは MDS と AA を共通にするのかどうか、昼の打合会で調整する必要あり。登録後のフォローアップ調査や、高リスク MDS はセントラルレビューに入れられないなど決定しておくべきことがある。また、登録システムについても、具体的にはどういった方法(U-min でいくか、臨血システムでいくかなど)にするか検討が必要である。

MDS 検体バンクは、三谷班と連携して進める。

朝長先生より、MDS 登録のインセンティブがでるようなことを考えた方がよいと発言あり。

3-4) 朝長先生：MDS 国際シンポジウムの報告あり。新規治療法 Revlimid や鉄キレート剤 ICL670 の臨床研究報告や、MDS 形態診断の国際的コンセンサス作りについて報告。また、長崎大学としては、原爆爆心地の被爆線量と MDS 発症率を広島大学と共同で検討する予定である。

3-5) 村手先生：MDS における WT1 遺伝子各アイソフォーム発現パターンの解析とそ

の意義に関する研究計画の説明。

3-6) 三谷先生：重点研究班の計画説明。MDS 検体バンクの提案。ホームページ開設の準備中。

3-7) 金倉先生：分子病態に関する研究の方向性、抗体医薬 (Eculizumab) などの報告。さらに、小峰先生から、Eculizumab 国内臨床試験の見通しについてまだ不確定要素が多いと説明あり。

3-8) 小澤先生：AIHA の基礎的調査は、梶井先生 (自治医大) が引き続き担当する。

3-9) 原田先生：骨髄線維症について移植療法以外にサリドマイドなどの治療薬も出現し、また分子病態では Jak2 の点変異なども報告されホット領域となった。

下田先生：骨髄線維症のプロスペクティブ調査の報告。また、サリドマイド治療の可能性や造血幹細胞移植の本邦の長期成績を報告した。さらに PV をはじめとした MPD の Jak2 の遺伝子異常の解析の Preliminary な結果や、今後 Jak 系だけでなく Tyk2 や STAT 系も含めて研究を広げる計画を紹介した。

3-10) 岡本先生：重症再生不良性貧血に対する同種骨髄移植後の二次性発癌についてさらに長期間観察する必要がある。骨髄線維症、重症再生不良性貧血、MDS に対する RIST の至適条件の検討を進める。高齢者 MDS に対する同種造血幹細胞移植はかなりおこなわれているので、造血幹細胞移植学会を中心にデータベースを完全にすることが必要。またフルダラビンが保険診療で使える可能性があり、今後プロスペクティブな研究をする必要がある。

3-11) 中畑先生：MDS と AA の小児例の登録について説明。日本小児科学会で既に全例登録調査が実施されており、今後はセントラルレビューも含めて日本 AA 治療研究会 (小島代表) や日本 MDS 治療研究会 (中畑代表) などとも連携を進めていく予定である。

平成17年度 第3回合同班員会議

日時：平成18年1月19日（木）午後6時～

場所：アステラス製薬（旧 山之内製薬）本社 313 会議室

〒103-8411 東京都中央区日本橋本町 2-3-11

議事録

出席者：小澤（主任研究者）、小峰（前主任研究者、アドバイザー）、三谷（重点研究班班長）、内山、岡本、金倉、澤田、朝長、中尾、中畑、原田、村手、杉田、山形、高德（事務局）、伊沢（三谷班事務局）、吉田（事務局）

1) 主任研究者の挨拶

2) 『疫学班』との連携について 杉田先生（疫学班）

池田班と連携して実施した TTP/HUS の全国疫学調査の概説あり。

永井班と連携し、難治性疾患研究における治療法の有効性的疫学調査を実施したが、これは後ろ向き調査であった。今後は、当研究班として長期的な視野をもった（2期6年）、疾患ごとの前方視的な疫学調査を検討するのが望ましいでしょう。

3) 『微生物班との連携について

再生不良性貧血とウイルスに関して、サンプルを集めるのは現実的には困難である。
中尾先生：明らかに肝炎後再生不良性貧血という症例は、金沢大でも3年に1例ぐらいしかないので、サンプル収集は難しい。

3) 報告事項：小澤より、前回の議事録、経過報告、難病財団研究奨励金受賞者の件、難治性疾患の疫学調査の経過報告、平成18年度研究計画（継続）提出について、平成18年度班員会議総会の予定、30周年記念国際シンポジウムについて報告、研究費の適正使用のお願い。

4) 審議事項

4-1) 30周年記念国際シンポジウム：日本人演者について

今回のシンポジウムのタイトル「特発性造血障害のゲノム解析と新規治療法開発」ということを鑑み、金沢大学 中尾眞二先生（再生不良性貧血）、東京大学 小川誠司先

生（不応性貧血）、九州大学 下田和哉先生（特発性骨髄線維症）の3名を満場一致で推薦した。

4-2) 中尾先生：再生不良性貧血の今後の研究計画を示した。まず、臨床血液学会と連携した患者登録システムの構築についての概説をした。出来るだけ多くの登録をしてもらえるように、複数のUSBメモリーを配置するなど工夫を進め、出来るだけ早期に実施開始を予定している。次に、再生不良性貧血における免疫病態マーカーの解析研究の概説があった。

中畑先生より：小児も登録を一緒にするのか？ その方向で進める。

リンフォグロブリンの今後はどうなるのか？ 研究班としては経過を見ているが、厚労省の対応がまだ決まっていないようである。

4-3) 澤田先生：これまで調査をまとめたが、小規模後ろ向き調査で、調査バイアスがある等の理由で Journal には受理されなかった。今後も赤芽球癆の調査継続の提案あり。また、前向き研究も是非進めるべきであると意見あり。

4-4) 内山先生：『AA/MDS の前方視的症例登録・セントラルレビュー・追跡調査研究』と『MDS の検体集積事業と遺伝子解析研究』の二つのプロジェクトを計画推進しているところである。前者の症例登録システムは今回の班員会議で提案し、修正後にまず自治医大で IRB を通過させ、全国調査に移る予定である。後者の検体収集事業は、研究計画を京都大学と獨協医大で IRB に諮問し、その後実施する方向である。

今後の検討課題として、

症例登録のデータベースは、誰がどのように利用するのがよいか？

症例登録に対するインセンティブは付与できるか？

4-5) 朝長先生：MDS 形態に関する国際ワーキンググループの報告あり。
形態診断の国際基準や ICUS という疾患カテゴリーの紹介など。

4-6) 村手先生：MDS における WT1 遺伝子各アイソフォーム発現パターンの解析とその意義に関する研究計画の説明。Cut off をどうとるかが難しく、AA と MDS をすっきり分けられない。

4-7) 三谷先生：重点研究班の平成18年度の計画説明。MDS 検体収集事業の整備計画の説明あり。重点研究班のホームページのデモあり。

検体収集事業から研究利用についてどうするか？

班員に計画を提出し、班員間のメーリングリスト等で検討後、承認するのはどうか。

4-8) 金倉先生：PNH の分子病態に関する研究の方向性、抗体医薬(Eculizumab)などの報告あり。また、PNH 患者登録は全国でまだ10名と少ないため、Eculizumab のグローバル治験に参加する上でも今後向上する努力が必要である。J-PIG のアクティビテ

ィを上げる必要がある。

西村先生：患者登録を是非進めてください。また、次期 IPIG の Chairman が Hillmen 博士となったため、7月のシンポジウムに招待するのは非常によいでしょう。

4-9) 小澤先生：AIHA の基礎的調査は、梶井先生（自治医大）が積極的に進めている。

4-10) 原田先生：骨髓線維症の後方視的症例調査の報告あり。このなかで、蛋白同化ステロイド（プリモボラン）の有効例があるので、今後は前向き調査を実施することを計画している。

4-11) 岡本先生：重症再生不良性貧血に対する同種骨髓移植後の二次性発癌についてさらに長期間観察を計画している。また骨髓線維症、重症再生不良性貧血、MDS に対する RIST の至適条件の検討を行っていく。高齢者 MDS に対する同種造血幹細胞移植はかなりおこなわれているので、造血幹細胞移植学会を中心にデータベースを完全にする必要はある。

4-12) 中畑先生：MDS と AA の小児例の登録について説明。疫学調査は、個人情報保護法との兼ね合いがあり、法に則った調査法に改変必要がある。

4-13) その他

朝長先生：今後 Revlimid の登場もあり、日本での 5q-症例がどの程度あるのか早急に知る必要がある。通山先生が作ったデータベースは活用できないのか？次回の班会議に報告してもらってはどうか。

資料 3. 班会議総会プログラム

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業

特発性造血障害に関する調査研究班

(主任研究者 小澤敬也)

および

重点研究

骨髓異形成症候群に対する
画期的治療法に関する研究班

(主任研究者 三谷絹子)

平成 17 年度 第 1 回合同班会議

平成 17 年 7 月 8 日(金)

アステラス製薬 (旧 山之内製薬) 本社

10 : 00 ~ 12 : 00 平成 17 年度 第 2 回合同班員会議 (313 会議室)

(別途御案内の先生方に、御出席をお願い致します。)

12 : 00 ~ 13 : 00 昼食 (2 階ホール)

(この時間帯で「セントラルレビュー」打ち合わせ会が
301 会議室で行われます。参加予定の先生方には、
同会議室に昼食を御用意します。)

13 : 00 ~ 17 : 45 平成 17 年度 第 1 回合同班会議総会 (2 階ホール)



《特発性造血障害に関する調査研究班》

自治医科大学 内科学講座血液学部門

〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺 3311-1

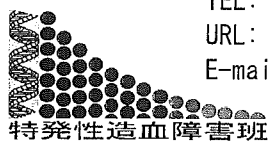
TEL: 0285-58-7353 / FAX: 0285-44-73

URL: <http://www.jichi.ac.jp/zoketsushogaihan>

E-mail: kozawa@ms2.jichi.ac.jp (小澤敬也)

mtakatok@jichi.ac.jp (高德正昭)

motokoy@jichi.ac.jp (吉田元子)



《重点研究：骨髓異形成症候群に対する画期的治療法に関する研究班》

獨協医科大学 内科学 (血液)

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880

TEL: 0282-86-1111 (内線 2744) / FAX: 0282-86-5630

E-mail: kinukom-tky@umin.ac.jp (三谷絹子)

開会の挨拶	(5分) (13:00-13:05)	小澤敬也
厚生労働省 挨拶	(5分) (13:05-13:10)	健康局疾病対策課
特発性造血障害班 前主任研究者 挨拶	(5分) (13:10-13:15)	小峰光博
MDS 重点研究班 主任研究者 挨拶	(5分) (13:15-13:20)	三谷絹子

- 1 特発性造血障害に関する調査研究班 班長報告 (10分) (13:20-13:30)
自治医科大学内科学講座血液学部門 小澤敬也

横断的基盤研究班との連携 座長 小澤敬也

- 2-1 《疫学班》造血障害疾患の疫学調査について (5分) (13:30-13:35)
東邦大学医学部衛生学 杉田 稔
- 2-2 《微生物班》特発性造血障害におけるウイルス感染の検索 (5分) (13:35-13:40)
国立感染症研究所感染病理部 佐多徹太郎

再生不良性貧血に関する研究計画 座長 小澤敬也

- 3 3年間の研究計画の提案 (15分) (13:40-13:55)
金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学 (血液・呼吸器内科)
中尾眞二
- 4 赤芽球癆の標準的治療法の確立に向けて (10分) (13:55-14:05)
秋田大学第三内科 澤田賢一

不応性貧血に関する研究計画 座長 小澤敬也

- 5 セントラルレビューとリンクした低リスク MDS の新規症例登録システム、ならびに
検体バンクの設立の提案 (15分) (14:05-14:20)
京都大学医学部血液・腫瘍内科 ○内山 卓、通山 薫、石川隆之
- 6 1. MDS 新規薬の現状と日本の課題：第 8 回 MDS シンポジウム報告 (15分) (14:20-14:35)
2. H17 年度研究計画：MDS 病型の国際比較 (2) 中国 vs 日本 (5分) (14:35-14:40)
長崎大学原爆後障害医療研究施設長／血液内科
朝長万左男
- 7 骨髄異形成症候群における WT1 遺伝子各アイソフォーム発現パターンの解析とその意義 (5分) (14:40-14:45)
名古屋大学医学部保健学科 ○村手 隆、高木 明、小嶋哲人
名古屋大学医学部血液内科 杉崎千穂、浅野治彦、木下朝博、直江知樹
名古屋大学医学部付属病院検査部 岩崎卓識、中村栄男
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 尾路裕介、杉山治夫
名古屋第一日赤病院検査部 伊藤雅文

複数の領域に亘る課題 座長 朝長万左男

- 8 特発性造血障害症例の疾患登録システムについて (5分) (14:45-14:50)
金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学 (血液・呼吸器内科)
中尾眞二
- 9 再生不良性貧血と低リスク MDS の前方視症例登録とセントラルレビュー (10分) (14:50-15:00)
埼玉医大血液内科 ○別所正美、陣内逸郎、松田晃、三角素弘
長崎大学原研内科 朝長万左男、対馬秀樹
金沢大学細胞移植学 中尾眞二、山崎宏人、杉盛千春、中条達也
京都大学医学部血液・腫瘍内科 内山 卓、石川隆弘
川崎医大検査診断学 通山 薫
聖路加病院小児科 眞部 淳
茨城県立こども病院 土田昌宏
昭和大学藤が丘病院病理 増永敦子

- 10 輸血後鉄過剰症の全国実態調査の事務局提案 (10分) (15:00-15:10)
自治医科大学内科学講座血液学部門 小澤敬也、○高德正昭

【MDS 重点研究班】 --- 研究発表 ---

座長 三谷絹子

- 11 班長報告 (10分) (15:10-15:20)
獨協医科大学内科学 (血液) 三谷絹子
- 12 7q 欠失候補遺伝子：同定とその性状 (10分) (15:20-15:30)
広島大学原爆放射線医科学研究所がん分子病態研究分野
稲葉俊哉、○麻生博也、松井啓隆、竹村幸敏、尾崎佑子
- 13 骨髄異形成症候群におけるゲノムコピー数の網羅的解析 (10分) (15:30-15:40)
東京大学造血再生医療寄付講座 小川誠司、○真田 昌
同 血液腫瘍内科 南谷泰仁、黒川峰夫
昭和大学藤ヶ丘病院内科血液 小峰光博
- 14 骨髄異形成症候群 不応性貧血におけるビタミン K₂ (VK₂) 単独療法および VK₂ と D₃ 併用療法
-多施設共同研究 (中間報告) - (10分) (15:40-15:50)
東京医科大学第一内科 大屋敷一馬、○宮澤啓介
東京医科大学難治性免疫疾患研究センター 大屋敷純子
Japan Hematology-Oncology Clinical Study Group 秋山 暢
東京大学血液腫瘍内科 神田善伸、平井久丸
川崎医科大学検査診断学 通山 薫
昭和大学藤ヶ丘病院内科血液 小峰光博
獨協医科大学内科学 (血液) 三谷絹子



15:50~16:00

coffee break



溶血性貧血に関する研究計画

座長 金倉 譲

- 15 発作性夜間ヘモグロビン尿症に関する研究計画 (5分) (16:00-16:05)
大阪大学血液・腫瘍内科学 金倉 譲
- 16 1. 症例登録、疫学調査の方針と国際登録 (10分) (16:05-16:15)
Duke 大学 西村純一
- 17 2. 抗体療法に関する現状と日本での臨床試験の見通し (5分) (16:15-16:20)
昭和大学藤ヶ丘病院 小峰光博
- 18 3. クローン性拡大の分子機序に関する研究戦略 (5分) (16:20-16:25)
大阪大学微生物病研究所 木下タロウ
- 19 自己免疫性溶血性貧血に関する研究計画 (10分) (16:25-16:35)
自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門・法医学部門
梶井英治、○亀崎豊実、小山田隆、坂本敦司

骨髄線維症に関する研究計画

座長 中尾真二

- 20 骨髄線維症の prospective follow up study (10分) (16:35-16:45)
九州大学病態修復内科 原田実根、○下田和哉
久留米大学第二内科 岡村 孝

骨髄線維症に対する治療法

- 21** 1. 本邦における骨髄線維症に対するサリドマイド治療、造血幹細胞移植療法の実態調査 (5分) (16:45-16:50)
九州大学病態修復内科 原田実根、○下田和哉
慶應義塾大学医学部血液内科 岡本真一郎
久留米大学第二内科 岡村 孝
- 22** 2. 骨髄線維症に対するサリドマイド治療、造血幹細胞移植療法の共同研究の提案 (5分) (16:50-16:55)
慶應義塾大学医学部血液内科 ○岡本真一郎
九州大学病態修復内科 下田和哉、原田実根
- 23** 骨髄増殖性疾患におけるサイトカインシグナル伝達分子の解析 (10分) (16:55-17:05)
九州大学病態修復内科 原田実根、幣光太郎、角光晴子、熊野 孝、○下田和哉

造血幹細胞移植領域の研究計画

座長 中尾真二

- 24** 高齢者 MDS に対する同種造血幹細胞移植の retrospective study (10分) (17:05-17:15)
慶應義塾大学医学部血液内科 岡本真一郎

小児科領域の研究計画

座長 中畑龍俊

- 25** 3年間の研究計画の提案 (15分) (17:15-17:30)
京都大学大学院医学研究科発達小児科学 中畑龍俊
- 26** 小児再生不良性貧血に対する前方視的多施設共同研究：AA97 研究の結果と今後の方向性 (10分) (17:30-17:40)
名古屋大学大学院医学研究科小児科 ○小島勢二
東邦大学大森病院輸血部 小原 明
京都大学大学院医学研究科発達小児科学 中畑龍俊

閉会の挨拶

(5分) (17:40-17:45)

小澤敬也



御発表に際して：

- (1) CD、MO (720 は不可)、あるいは USB メモリによるデータを受付に御提出下さい。
- (2) 配布資料は、表紙右肩に□で囲んだ演題番号を記したものを、120 部御用意下さい。
- (3) 割り当て時間は発表と討論を含みますので、討論の時間を残すようにコンパクトに御発表下さい



アステラス製薬株式会社本社

東京都中央区日本橋本町 2-3-1 1

東京メトロ三越前駅

A6 出口 (銀座線プラットホーム寄り) から 3 分

※半蔵門線を御利用の方は上記出口を御利用下さい。

東京メトロ小伝馬町駅 3 番出口から 10 分

JR 神田駅東口出口から 15 分

JR 新日本橋駅 3 番出口から 10 分

※駐車場はございませんので、お車での御来場は御遠慮下さい。

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業

特発性造血障害に関する調査研究班

(主任研究者 小澤敬也)

および

重点研究

骨髓異形成症候群に対する
画期的治療法に関する研究班

(主任研究者 三谷絹子)

平成17年度 第2回合同班会議総会

平成18年1月20日(金) 9:00~17:00

アステラス製薬(旧 山之内製薬) 本社 2階ホール

平成17年度 第3回合同班員会議

平成18年1月19日(木) 18:00~

アステラス製薬本社 313会議室

(別途御案内の先生方には、御出席をお願い致します。)

《特発性造血障害に関する調査研究班》

自治医科大学 内科学講座血液学部門

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

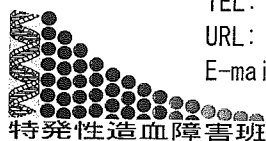
TEL: 0285-58-7353 / FAX: 0285-44-5258

URL: <http://www.jichi.ac.jp/zoketsushogaihan>

E-mail: kozawa@ms2.jichi.ac.jp (小澤敬也)

mtakatok@jichi.ac.jp (高德正昭)

motokoy@jichi.ac.jp (吉田元子)



《重点研究：骨髓異形成症候群に対する画期的治療法に関する研究班》

獨協医科大学 内科学(血液)

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880

TEL: 0282-86-1111 (内線 2744) / FAX: 0282-86-5630

E-mail: kinukom-tky@umin.ac.jp (三谷絹子)

開会の挨拶 (5分) (9:00-9:05)
厚生労働省 御挨拶 (5分) (9:05-9:10)

主任研究者 小澤敬也
健康局疾病対策課

- 1 特発性造血障害に関する調査研究班 班長報告 (10分) (9:10-9:20)
自治医科大学内科学講座血液学部門 小澤敬也

再生不良性貧血領域

座長 中尾眞二

- 2 研究の進捗状況について (10分) (9:20-9:30)
金沢大学大学院細胞移植学 中尾眞二
- 3 再生不良性貧血における免疫病態のマーカー (15分) (9:30-9:45)
1. 臨床的意義の検討
2. 共通免疫抑制療法プロトコールによる臨床試験の提案
金沢大学大学院細胞移植学 ○中尾眞二、杉盛千春、山崎宏人
- 4 ファンconi貧血の病態と治療：最近の知見 (10分) (9:45-9:55)
群馬大学・生体調節研究所 ○山下孝之
東海大学・小児科 小田 司、浜之上聡、矢部普正、矢部みはる
- 5 PRCAに関するアンケート調査の進捗状況と病因解析に関する共同研究提案 (10分) (9:55-10:05)
秋田大学第三内科 ○澤田賢一、廣川 誠
金沢大学大学院細胞移植学 中尾眞二
NTT 関東病院 浦部晶夫
昭和大学藤が丘病院 小峰光博
自治医科大学内科学講座血液学部門 小澤敬也
- 6 造血と樹状細胞 (10分) (10:05-10:15)
秋田大学第三内科 ○澤田賢一、廣川誠、齊藤宏文
齊藤邦江、藤島直仁、藤島真澄

不応性貧血領域

座長 内山 卓

- 7 研究の進捗状況について (10分) (10:15-10:25)
京都大学血液・腫瘍内科 内山 卓
- 8 再生不良性貧血/骨髄異形成症候群の前方視的症例登録・セントラルレビュー・追跡調査研究 (20分) (10:25-10:45)
京都大学血液・腫瘍内科 内山 卓、○石川隆之
川崎医科大学検査診断学 通山 薫
埼玉医科大学血液内科 松田 晃
金沢大学細胞移植学 中尾眞二
獨協医科大学内科学(血液) 三谷絹子
自治医科大学内科学講座血液学部門 小澤敬也
- 9 MDS形態に関する国際ワーキンググループ：中間報告(Lisbon/Nagasaki Meetingから) (15分) (10:45-11:00)
長崎大学原研内科(血液内科) ○朝長万左男
埼玉医科大学血液内科 陣内逸郎、松田 晃

10 日本・中国 MDS 共同研究（進行状況報告）（10分）（11:00-11:10）
埼玉医科大学血液内科 ○松田 晃、別所正美、陣内逸朗、矢ヶ崎史治、荒関かやの
長崎大学原研内科（血液内科） 朝長万左男、岩永正子、波多智子、對馬秀樹、境 麻里

11 低形成骨髄異形成症候群と再生不良性貧血の鑑別診断における PET の有用性の検討（10分）（11:10-11:20）
自治医科大学内科学講座血液学部門 小澤敬也、○高德正昭
宇都宮セントラルクリニック 佐藤俊彦

座長 朝長万左男

12 骨髄異形成症候群における WT1 発現の診断的意義（10分）（11:20-11:30）
名古屋大学医学部保健学科 村手 隆
名古屋大学医学部附属病院検査部 岩崎卓識
名古屋大学医学部血液内科 ○杉崎千穂、浅野治彦、直江知樹
名古屋第一赤十字病院病理部 伊藤雅文
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 尾路祐介、杉山治夫
名古屋大学医学部附属病院病理部 中村栄男

13 骨髄異形成症候群(MDS)における Fractalkine/CX3CR1 系を介した新しい免疫学的機序の解析（10分）（11:30-11:40）
近畿大学医学部血液内科 金丸昭久、田中みやこ、平瀬主税
森田泰慶、○松田光弘

14 AML1 点変異を有する MDS/AML の多段階発症メカニズムの解明（10分）（11:40-11:50）
広島大学原爆放射線医科学研究所血液内科 木村昭郎、○原田浩徳、原田結花
国際放射線情報センター 新美寛正、丁 曄

全体に亘るテーマ

座長 小澤敬也

15 輸血後鉄過剰症の全国実態調査：一次調査および意識調査の結果報告（10分）（11:50-12:00）
自治医科大学内科学講座血液学部門 小澤敬也、○高德正昭



12:00~13:00

lunch time



重点研究「骨髄異形成症候群に対する画期的治療法に関する研究」班 座長 三谷絹子

16 班長報告（10分）（13:00-13:10）
獨協医科大学内科学（血液） 三谷絹子

17 骨髄異形成症候群患者の検体集積事業と遺伝子解析研究（15分）（13:10-13:25）
京都大学血液・腫瘍内科 内山 卓、○石川隆之
獨協医科大学内科学（血液） 三谷絹子

18 マイクロアレイを用いた MDS の新規治療薬の標的分子の探索（10分）（13:25-13:35）
東京大学造血再生医療寄付講座 小川誠司、○真田 昌
同 血液腫瘍内科 黒川峰夫
昭和大学藤ヶ丘病院内科血液 小峰光博

19 7q 欠損遺伝子候補の同定とその DNA 修復における機能（10分）（13:35-13:45）
広島大学原爆放射線医科学研究所がん分子病態研究分野
稲葉俊哉、○麻生博也、安藝大輔
松井啓隆、竹村幸敏、尾崎佑子